

<前ページからつづく。この1週間のお気持ちについて、それぞれ1から4のうち、あてはまる数字1つに○>

|                               |                  |                       |                       |
|-------------------------------|------------------|-----------------------|-----------------------|
| (l) 物事を楽しみにして待つことが;           |                  |                       |                       |
| 1. いつもと同じ<br>だけあった            | 2. 以前ほどは<br>なかった | 3. 以前よりも明らかに<br>少なかった | 4. めったに<br>なかった       |
| (m) 突然、理由のない恐怖感におそわれることが;     |                  |                       |                       |
| 1. しょっちゅう<br>あった              | 2. たびたびあった       | 3. 少しだけあった            | 4. まったく<br>なかった       |
| (n) 面白い本や、ラジオまたはテレビ番組を楽しむことが; |                  |                       |                       |
| 1. たびたびできた                    | 2. ときどきできた       | 3. たまにできた             | 4. ほとんどめったに<br>できなかった |

◆◆◆3 お仕事や経済面についておうかがいします◆◆◆

問3-1 現在あなたは、収入をとまなう仕事についていますか。(○は1つ)

|          |                    |           |
|----------|--------------------|-----------|
| 1. ついている | 2. 仕事についているが、休んでいる | 3. ついていない |
|----------|--------------------|-----------|

↓

|   |        |
|---|--------|
| 副問3-1-1 現在、収入をとまなう仕事につくことを希望し、仕事を探していますか。 |        |
| 1. はい                                     | 2. いいえ |

問3-2 あなたはこれまで、ご自身がHIV感染していることを、職場の同僚や上司に、主にどのように伝えて  
いますか。あるいは、たずねられたときに主にどのように答えていますか。(○は1つ)

|                         |                    |
|-------------------------|--------------------|
| 1. HIVに感染していると伝えている     | 2. からだが弱いと伝えている    |
| 3. 肝臓病(B型肝炎など)であると伝えている | 4. 糖尿病であると伝えている    |
| 5. 貧血であると伝えている          | 6. その他の説明( )       |
| 7. 特に何も伝えていないし、答えていない   | 8. これまで仕事に就いたことがない |

問3-3 あなたの、現在の経済的な暮らし向きは、いかがですか。(○は1つ)

|          |          |        |             |             |
|----------|----------|--------|-------------|-------------|
| 1. 大変苦しい | 2. やや苦しい | 3. ふつう | 4. ややゆとりがある | 5. 大変ゆとりがある |
|----------|----------|--------|-------------|-------------|

問3-4 現在あなたは、身体障害者認定を受けていますか。受けている場合は、その等級もお書きください。  
(○は1つ) ※HIVで受けている=免疫機能障害で受けている

|                      |                     |        |           |
|----------------------|---------------------|--------|-----------|
| 1. HIVで受けている(※)(__級) | 2. HIV以外で受けている(__級) | 3. 申請中 | 4. 受けていない |
|----------------------|---------------------|--------|-----------|

問3-5 以下のような支出や自己負担は1ヶ月間でどのくらいですか。(2002年3月~8月末までの平均で)

|                                   |     |                      |   |
|-----------------------------------|-----|----------------------|---|
| (a) 医療費(自己負担分).....               | 月平均 | <input type="text"/> | 円 |
| (b) 通院のための交通費.....                | 月平均 | <input type="text"/> | 円 |
| (c) 民間薬・健康食品・代替療法・民間療法の費用(※)..... | 月平均 | <input type="text"/> | 円 |

※(c)の「民間薬・健康食品・代替療法・民間療法」には、漢方薬、ビタミン剤、自然食品、無農薬食品、プロポリス、クロレラ、栄養補助剤、  
はり、きゅう、マッサージ、指圧、整体、座禅、瞑想、太極拳、ヨガ、気功などが含まれます。

◆◆◆4 性生活についておたずねします◆◆◆

●結果は統計的に処理され、個人の秘密は守られます。また、皆さまのふだんの生活への理解を高め、よりよい社会的環境を整える上で、きわめて貴重な資料としていきたいと思っております。大変答えづらい質問もあるかとは思いますが、ぜひとも率直にお答えいただきますよう、ご協力よろしくお願い申し上げます。

問4-1 HIV感染を知る前と比べて現在、以下のようなことをしていますか。(各々1・2のどちらかに○)

- (a) セックス(性交渉)の回数を意識的に抑えている・・・1. はい 2. いいえ
- (b) セックス(性交渉)の相手の数を意識的に抑えている・・・1. はい 2. いいえ
- (c) セックス(性交渉)の方法や内容を意識的に抑えている・・・1. はい 2. いいえ
- (d) セーファーセックス(より安全な性交渉)のみを行うようになった・・・1. はい 2. いいえ
- (e) セックス(性交渉)をしなくなった・・・1. はい 2. いいえ

問4-2 あなたは、ご自身のHIV感染を知ってからこれまでに、以下のような経験がありましたか。

(各々1から3のあてはまるもの1つに○) ※コンドームには男性用・女性用の両方が含まれます。

- (a) HIV感染者がセックス(性交渉)するのはよくあった 少しかつた なかつた  
よくないと周りの人々から非難された・・・1.....2.....3
- (b) あなたのHIV感染を相手に知られ、セックス(性交渉)を断られた・・・1.....2.....3
- (c) あなたのHIV感染を夫・妻・パートナー・恋人が知り、相手が離れていった・・・1.....2.....3
- (d) HIV感染していることを夫・妻・パートナー・恋人に打ち明けられなかつた 1.....2.....3
- (e) もうセックス(性交渉)をしたくないと思つた・・・1.....2.....3
- (f) 相手に要求されて、仕方なくコンドームを使った・・・1.....2.....3
- (g) コンドームを使おう・使ってもらおうとしたら不愉快な顔をされた・・・1.....2.....3

以下、HIV感染を初めて知つてから1年以内の方は「HIV感染を知つてから現在まで」についてお答えください。

問4-3 コンドームを使うことについて、この1年間のあなたのお気持ちやお考えをお聞かせください。

(各々1から4のあてはまるもの1つに○) ※コンドームには男性用・女性用の両方が含まれます。

- |  |              |               |            |             |
|--|--------------|---------------|------------|-------------|
|  | 全くそう<br>思わない | あまりそう<br>思わない | ややそう<br>思う | 大いに<br>そう思う |
| (a) コンドームを準備するのは面倒である・・・                       | 1.....       | 2.....        | 3.....     | 4.....      |
| (b) コンドームを使うのは面倒である・・・                         | 1.....       | 2.....        | 3.....     | 4.....      |
| (c) コンドームを使うとセックス(性交渉)の雰囲気がかわる                 | 1.....       | 2.....        | 3.....     | 4.....      |
| (d) コンドームを使うと気持ちが良くない・・・                       | 1.....       | 2.....        | 3.....     | 4.....      |
| (e) HIV感染や性感染症の予防にコンドームは有効である・・・               | 1.....       | 2.....        | 3.....     | 4.....      |
| (f) コンドーム以外にはHIV感染を防ぐ手立てはない・・・                 | 1.....       | 2.....        | 3.....     | 4.....      |
| (g) HIV感染の予防のために、<br>自分はコンドームを使うべきだと思ふ・・・      | 1.....       | 2.....        | 3.....     | 4.....      |
| (h) 避妊のために、コンドームを使つていきたい・・・                    | 1.....       | 2.....        | 3.....     | 4.....      |
| (i) コンドームを使いたい・使つてほしいと<br>自分からは相手に言い出しにくい・・・   | 1.....       | 2.....        | 3.....     | 4.....      |
| (j) コンドーム使用をめぐつて、性交渉相手との<br>コミュニケーションを取りづらい・・・ | 1.....       | 2.....        | 3.....     | 4.....      |

問4-4 次に、性生活や周りの人々とのかかわりなどについての、この1年間のあなたのお気持ちやお考えをお聞かせください。(各々1から4のあてはまるもの1つに○) ※コンドームには男性用・女性用の両方が含まれます。

|  | 全くそう<br>思わない | あまりそう<br>思わない | ややそう<br>思う | 大いに<br>そう思う |
|--|--------------|---------------|------------|-------------|
| <u>セックス(性交渉)の際、</u>  |              |               |            |             |
| (a) セックス(性交渉)によるHIV感染の責任は相手にもある・                               | 1            | 2             | 3          | 4           |
| (b) 性交渉相手をHIV感染から守りたい・   | 1            | 2             | 3          | 4           |
| (c) 自分はHIV以外の性感染症にかかりたくない・                                     | 1            | 2             | 3          | 4           |
| (d) 性交渉相手をHIV感染させてはいけないという<br>社会や周りの人々の雰囲気強く感じる・               | 1            | 2             | 3          | 4           |
| <u>コンドームを使わない場合、</u>   |              |               |            |             |
| (e) 膣性交・肛門性交では、HIV感染の可能性はきわめて低い・                               | 1            | 2             | 3          | 4           |
| (f) 膣性交・肛門性交では、HIV以外の性感染症への<br>感染の可能性はきわめて低い・                  | 1            | 2             | 3          | 4           |
| (g) オーラルセックスでは、HIV感染の可能性はきわめて低い・                               | 1            | 2             | 3          | 4           |
| (h) オーラルセックスでは、HIV以外の性感染症への<br>感染の可能性はきわめて低い・                  | 1            | 2             | 3          | 4           |
| <u>社会や周りの人々とのかかわりに関連して、</u>                                    |              |               |            |             |
| (i) HIV感染していても性生活が大切である<br>ことを社会や周りの人々はわかってくれている・              | 1            | 2             | 3          | 4           |
| (j) HIV感染者はセックス(性交渉)をすべきではないとする<br>社会や周りの人々の雰囲気強く感じる・          | 1            | 2             | 3          | 4           |
| (k) セックス(性交渉)の際、HIV感染を相手に知られると、<br>性交渉を断られてしまうのではないかと不安である・    | 1            | 2             | 3          | 4           |
| (l) 自分のHIV感染を夫・妻・パートナー・恋人に知られると、<br>自分から離れていってしまうのではないかと不安である・ | 1            | 2             | 3          | 4           |

問4-5 これまで、HIV感染後の性生活上の注意点について、通院先の医療機関の医療者(医師や看護師など)に、説明してもらったり教えてもらったりして、知識や情報を得る機会がありましたか。(○は1つ)

1. 十分にあった      2. あったが十分ではなかった      3. なかった → 問4-6へ

副問4-5-1 通院先の医療機関の医療者(医師や看護師など)から得た、HIV感染後の性生活上の注意点についての説明・情報で、問題を感じたり気になったりしたことがありましたか。(○は1つ)

1. よくあった      2. 少しあった      3. なかった → 問4-6へ

副問4-5-2 問題を感じたり気になったりした点について、具体的にお書きください。

問4-6 それ以外ではいかがでしょう。通院先の医療機関の医療者(医師や看護師など)からの説明・情報以外で、HIV感染後の性生活上の注意点について、自分で調べたり、説明してもらったり教えてもらったりして、知識や情報を得る機会が、これまでありましたか。(○は1つ)

1. 十分にあった      2. あったが十分ではなかった      3. なかった

問4-7 セックス(性交渉)や、その他の性的な興奮を得る行為をすること(性器や乳房の刺激、キス、抱擁など)について、全般的に、あなたは現在、満足していますか。(〇は1つ)

1. 全く満足していない 2. あまり満足していない 3. やや満足している 4. 大いに満足している

問4-8 あなたがこれまでにセックス(性交渉)や、性的な興奮を得る行為(性器や乳房の刺激、キス、抱擁など)をした(された)相手の性別は、主に次のどれに該当しますか。(〇は1つ)

1. 異性 2. 同性 3. 異性も同性も

以下、HIV感染を初めて知ってから1年以内の方は「HIV感染を知ってから現在まで」についてお答えください。

問4-9 この1年間に、セックス(性交渉)を1回以上しましたか。(〇は1つ)

1. はい 2. いいえ

この1年間にセックス(性交渉)を全く1回もしなかった方は、次ページ下から2番目の問5-1へ

問4-10 この1年間のセックス(性交渉)の頻度は、平均してどのくらいですか。(〇は1つ)

1. 年1~2回 2. 年3~4回 3. 2ヶ月に1回程度 4. 月に1回程度 5. 月に2~3回  
6. 週1回程度 7. 週2~3回 8. 週4回 9. 週5回以上

問4-11 この1年間に、次のようなセックス(性交渉)の際、コンドームをどの程度使おうと思っていましたか。実際に使った、あるいは使わなかった程度ではなく、セックス(性交渉)に先立って使おう、あるいは使わないでおこうと思っていた程度についてお答えください。 ※コンドームには男性用・女性用の両方が含まれます。

(a) 膣(ちつ)性交(男性の性器を女性の性器に挿入する・される行為)や肛門性交(男性の性器を女性あるいは男性の肛門に挿入する・される行為)の際に、セックス(性交渉)に先立って、使おう、あるいは使わないでおこうと思っていた程度は(〇は1つ)

1. 使おうといつも思っていた 2. 使おうと思っていたときの方が多い  
3. 使おうと思っていたときと使わないでおこうと思っていたときが半々くらい  
4. 使わないでおこうと思っていたときの方が多い 5. 使わないでおこうといつも思っていた  
6. 膣性交や肛門性交を全くしなかった

(b) オーラルセックス(男性の性器や女性の性器を口や舌で刺激する行為)の際に、セックス(性交渉)に先立って、使おう、あるいは使わないでおこうと思っていた程度は(〇は1つ)

1. 使おうといつも思っていた 2. 使おうと思っていたときの方が多い  
3. 使おうと思っていたときと使わないでおこうと思っていたときが半々くらい  
4. 使わないでおこうと思っていたときの方が多い 5. 使わないでおこうといつも思っていた  
6. オーラルセックスを全くしなかった

問4-12 実際には、この1年間に、次のようなセックス(性交渉)の際、コンドームをどの程度使っていましたか。 ※コンドームには男性用・女性用の両方が含まれます。

(a) 膣(ちつ)性交(男性の性器を女性の性器に挿入する・される行為)や肛門性交(男性の性器を女性あるいは男性の肛門に挿入する・される行為)の際に、実際に使っていた程度はどのくらいですか。(〇は1つ)

1. 必ず使っていた 2. 使う方が多かった 3. 使う使わないが半々くらいだった  
4. 使わない方が多かった 5. 全く使わなかった 6. 膣性交や肛門性交を全くしなかった

(b) オーラルセックス(男性の性器や女性の性器を口や舌で刺激する行為)の際に、実際に使っていた程度はどのくらいですか。(〇は1つ)

1. 必ず使っていた 2. 使う方が多かった 3. 使う使わないが半々くらいだった  
4. 使わない方が多かった 5. 全く使わなかった 6. オーラルセックスを全くしなかった

問4-13 この1年間の性生活中、『決まった相手』がいましたか。いた場合、何人いましたか。(Oは1つ)  
 <『決まった相手』とは、ほぼ定期的にセックスをしている(することができる)関係にある相手を意味し、夫・妻、パートナー、婚約者、恋人などが含まれます。>

|                          |                 |
|--------------------------|-----------------|
| 1. はい → (この1年間に _____ 人) | 2. いいえ → 問4-14へ |
|--------------------------|-----------------|

副問4-13-1 この1年間の『決まった相手』のうち、“主な『決まった相手』”との関係について、全般的にどの程度満足していましたか。(Oは1つ)

|          |         |              |         |          |
|----------|---------|--------------|---------|----------|
| 1. 非常に不満 | 2. やや不満 | 3. どちらとも言えない | 4. まあ満足 | 5. 大いに満足 |
|----------|---------|--------------|---------|----------|

副問4-13-2 上の問でいう、“主な『決まった相手』”は、HIVに感染していますか。(Oは1つ)

|              |               |          |
|--------------|---------------|----------|
| 1. HIV感染している | 2. HIV感染していない | 3. わからない |
|--------------|---------------|----------|

問4-14 この1年間に、『不特定の相手』とセックス(性交渉)をしましたか。(Oは1つ)

<『不特定の相手』とは『決まった相手』(夫・妻、パートナー、婚約者、恋人など)以外のセックスの相手を意味し、友人、顔見知り、たまたま出会った人などが含まれます。ただしここでは、セックスに対して、お金を払ったり、もらったりした相手を含めません。>

|       |        |
|-------|--------|
| 1. はい | 2. いいえ |
|-------|--------|

問4-15 この1年間に、そのつど、お金を払ったり、もらったりしてセックス(性交渉)をしましたか。口を使ったセックスも含まれます。(Oはいくつでも)

|            |          |                    |
|------------|----------|--------------------|
| 1. 日本国内でした | 2. 海外でした | 3. 日本国内でも海外でもしなかった |
|------------|----------|--------------------|

問4-16 この1年間に、セックス(性交渉)した時、お酒を飲んでいましたか。(Oは1つ)

|               |            |              |            |
|---------------|------------|--------------|------------|
| 1. 飲んでいたことはない | 2. 時々飲んでいた | 3. たいてい飲んでいた | 4. 毎回飲んでいた |
|---------------|------------|--------------|------------|

問4-17 この1年間に、セックス(性交渉)した時、薬物を使用していましたか。薬物にはラッシュなどの合法ドラッグも含まれます。(Oは1つ)

|              |             |               |             |
|--------------|-------------|---------------|-------------|
| 1. 使用したことはない | 2. 時々使用していた | 3. たいてい使用していた | 4. 毎回使用していた |
|--------------|-------------|---------------|-------------|

以下は全員がお答えください

◆◇◆5 まわりの人々との関係についてうかがいます◆◇◆

問5-1 あなたは、ご自身がHIV感染していることが理由で、結婚やパートナー関係・恋人関係に踏み込むことを避けていますか。 ※パートナーとは、夫・妻以外で、夫・妻のように生活を共にしている相手

|             |              |            |             |
|-------------|--------------|------------|-------------|
| 1. 全く避けていない | 2. あまり避けていない | 3. やや避けている | 4. 大いに避けている |
|-------------|--------------|------------|-------------|

問5-2 HIV感染のことも含めて、心配事や悩み事を聞いてくれたり、理解してくれたりする人はいますか。(Oはいくつでも)

|                    |                    |                 |
|--------------------|--------------------|-----------------|
| 1. 父・母             | 2. 夫・妻・パートナー・恋人    | 3. 子ども          |
| 4. 兄弟姉妹            | 5. その他の親戚          | 6. 職場の上司・同僚     |
| 7. 学校の教師・学生・生徒     | 8. 友人・知人(HIV感染者以外) | 9. HIV感染者の友人・知人 |
| 10. 病院の医師・看護師      | 11. 病院の相談員・カウンセラー  | 12. ボランティア      |
| 13. 役所・保健所・福祉事務所職員 | 14. HIV関連団体や患者会    | 15. その他( )      |
| 16. そのような人はいない     |                    |                 |

問5-3 これまでに、HIV感染者であることによって、あるいはそれを疑われて、差別を受けたり差別的な態度をとられたりした経験がありましたか。(〇は1つ)

|          |          |                 |
|----------|----------|-----------------|
| 1. よくあった | 2. 少しあった | 3. なかった → 問5-4へ |
|----------|----------|-----------------|

副問5-3-1 それはどのような人によってですか。(〇はいくつでも)

|                    |                     |                 |
|--------------------|---------------------|-----------------|
| 1. 父・母             | 2. 夫・妻・パートナー・恋人     | 3. 子ども          |
| 4. 兄弟姉妹            | 5. その他の親戚           | 6. 職場の上司・同僚     |
| 7. 学校の教師・学生・生徒     | 8. 友人・知人 (HIV感染者以外) | 9. HIV感染者の友人・知人 |
| 10. 病院の医師・看護師      | 11. 病院の相談員・カウンセラー   | 12. ボランティア      |
| 13. 役所・保健所・福祉事務所職員 | 14. HIV関連団体や患者会     | 15. その他 ( )     |

問5-4 これまでに、HIV感染者であるということで、まわりの人に余計な世話をやかれて困った経験がありましたか。(〇は1つ)

|          |          |                 |
|----------|----------|-----------------|
| 1. よくあった | 2. 少しあった | 3. なかった → 問5-5へ |
|----------|----------|-----------------|

副問5-4-1 それはどのような人によってですか。(〇はいくつでも)

|                    |                     |                 |
|--------------------|---------------------|-----------------|
| 1. 父・母             | 2. 夫・妻・パートナー・恋人     | 3. 子ども          |
| 4. 兄弟姉妹            | 5. その他の親戚           | 6. 職場の上司・同僚     |
| 7. 学校の教師・学生・生徒     | 8. 友人・知人 (HIV感染者以外) | 9. HIV感染者の友人・知人 |
| 10. 病院の医師・看護師      | 11. 病院の相談員・カウンセラー   | 12. ボランティア      |
| 13. 役所・保健所・福祉事務所職員 | 14. HIV関連団体や患者会     | 15. その他 ( )     |

副問5-4-2 具体的にはどのようなことでしたか。最も印象に残っているものについてお書きください。

|        |          |                  |
|--------|----------|------------------|
| いつ頃    | どのような人から | どのような内容をどのような状況で |
| 西暦( )年 |          |                  |

問5-5 これまでに、HIV感染者であるということで、まわりの人に必要以上に気をつけられたり同情されたりして困った経験がありましたか。(〇は1つ)

|          |          |                 |
|----------|----------|-----------------|
| 1. よくあった | 2. 少しあった | 3. なかった → 問5-6へ |
|----------|----------|-----------------|

副問5-5-1 それはどのような人によってですか。(〇はいくつでも)

|                    |                     |                 |
|--------------------|---------------------|-----------------|
| 1. 父・母             | 2. 夫・妻・パートナー・恋人     | 3. 子ども          |
| 4. 兄弟姉妹            | 5. その他の親戚           | 6. 職場の上司・同僚     |
| 7. 学校の教師・学生・生徒     | 8. 友人・知人 (HIV感染者以外) | 9. HIV感染者の友人・知人 |
| 10. 病院の医師・看護師      | 11. 病院の相談員・カウンセラー   | 12. ボランティア      |
| 13. 役所・保健所・福祉事務所職員 | 14. HIV関連団体や患者会     | 15. その他 ( )     |

副問5-5-2 具体的にはどのようなことでしたか。最も印象に残っているものについてお書きください。

|        |          |                  |
|--------|----------|------------------|
| いつ頃    | どのような人から | どのような内容をどのような状況で |
| 西暦( )年 |          |                  |

問5-6 これまでに、HIV感染者であることを、誰かに勝手に知らされた経験がありましたか。(○は1つ)

|          |          |                 |
|----------|----------|-----------------|
| 1. よくあった | 2. 少しあった | 3. なかった → 問5-7へ |
|----------|----------|-----------------|

副問5-6-1 それはどのような人によってですか。(○はいくつでも)

|                    |                     |                 |
|--------------------|---------------------|-----------------|
| 1. 父・母             | 2. 夫・妻・パートナー・恋人     | 3. 子ども          |
| 4. 兄弟姉妹            | 5. その他の親戚           | 6. 職場の上司・同僚     |
| 7. 学校の教師・学生・生徒     | 8. 友人・知人 (HIV感染者以外) | 9. HIV感染者の友人・知人 |
| 10. 病院の医師・看護師      | 11. 病院の相談員・カウンセラー   | 12. ボランティア      |
| 13. 役所・保健所・福祉事務所職員 | 14. HIV関連団体や患者会     | 15. その他 ( )     |

問5-7 現在あなたは、HIV感染に対するまわりの目を意識して、次のようなことをしていますか。

(各々1・2のどちらかに○)

|                                      |              |
|--------------------------------------|--------------|
| (a) 医療費は、医療保険を使わず、自費で払っている           | 1. はい 2. いいえ |
| (b) 職場、学校、近所では、親密に付き合うことを避けている       | 1. はい 2. いいえ |
| (c) 親戚との付き合いは避けるようにしている              | 1. はい 2. いいえ |
| (d) 地元の人や知人に会うことのない病院を受診している         | 1. はい 2. いいえ |
| (e) 職場や学校などで健康診断を受けることを避けている         | 1. はい 2. いいえ |
| (f) 周りの人にHIV感染を知られないよう、いつも警戒心を働かせている | 1. はい 2. いいえ |
| (g) 居づらくなって転居した経験がある                 | 1. はい 2. いいえ |

### ◆◆◆6 最後に、あなたのお気持ちやお考えについてうかがいます◆◆◆

問6-1 以下についての、あなたのお気持ちやお考えをお聞かせください。

(各々1から4のあてはまるもの1つに○)

|  |      |       |      |      |
|--|------|-------|------|------|
|  | 全くそう | あまりそう | ややそう | 大いに  |
|  | 思わない | 思わない  | 思う   | そう思う |
| (a) HIVに感染すると長期にわたり<br>病氣と闘わなければならなくなる             | 1    | 2     | 3    | 4    |
| (b) HIVに感染すると命を落とす可能性がある                           | 1    | 2     | 3    | 4    |
| (c) HIVに感染すると日常生活で困ったり大変になったりする                    | 1    | 2     | 3    | 4    |
| (d) HIVに感染すると健康を維持するのが大変になる                        | 1    | 2     | 3    | 4    |
| (e) HIV感染やその治療により容姿・外見が変化して困る                      | 1    | 2     | 3    | 4    |
| (f) 自分には失うものは何もない                                  | 1    | 2     | 3    | 4    |
| (g) 一般に、自分の健康を維持する責任は自分自身にある                       | 1    | 2     | 3    | 4    |
| (h) 社会や周りの人々はHIV感染を身近なことと思っていない                    | 1    | 2     | 3    | 4    |
| (i) 社会や周りの人々は、HIV感染者の日常生活が<br>どのようなものなのか、全くわかっていない | 1    | 2     | 3    | 4    |

次のページもご覧ください。

★これで終わりです。この調査についてご意見・ご感想などがありましたら、ご自由にお書きください★

◆◆◆たいへん長い時間ご協力いただき、ありがとうございました◆◆◆

お手数ですが、もう一度お書き忘れがないかご確認の上、

返信用封筒に入れて一両日中に郵送してください。



# H I V感染予防介入の実践方法論としての 「プリベンション・ケースマネジメント」の理解と導入に関する研究

藤原良次 (NGOりょうちゃんず)、椎村和義 (NGOりょうちゃんず)、内野悌司 (広島大学)、鬼塚直樹 (カリフォルニア大学サンフランシスコ校エイズ予防研究センター)、橋本 謙 (東京都立北多摩高等学校) 宮島謙介 (MASH東京、成城墨岡クリニック)、今井敏幸 (NGOりょうちゃんず)

## A. 研究の目的：

近年H I V感染予防介入の必要性が広く認識され、様々な研究や活動が活発に繰り返されてきている。しかしこれまでの感染予防介入においては、社会通念や常識の変革、あるいは情報伝達に重きが置かれ、個人がとっているリスク行為そのもの自体に焦点を当て、行動変容を促そうとする、いわゆる個人レベルでの介入がなかなか実現できないという状況が続いてきている。H I Vはセックスという人間の取る行動によって感染するものであることを考慮する時、その感染予防介入において、個人が取る行動に働きかける要素を取り込んでいかなければならないことは不可欠である。また先行の研究において、H I Vやエイズに関する知識や情報は、それだけでは個人の行動変容には結びつかないということが、次第に認識されるようになってきた。こういった状況の中で、正確な知識・情報の提供に加えて、個人が取り組もうとしている感染予防を目的とした行動変容に、支援を提供しようとする予防介入の方法論の開発・導入が、強く必要とされている。当研究では、H I V感染予防介入策開発の一環として、まずアメリカで実際に行われてきたプリベンション・ケースマネジメント (PCM) の理念と実践の理解を図り、それに基づいて、日本への導入の可能性とその方法の検証を進めることを目的とし、同時に、人材育成やプロジェクトのデザインを行い、対象グループを設定した介入プログラムの実施にむけての状況整備も併せて目的とする。

## B. 研究の方法：

本年度の主な研究活動として、対個人予防介入に必要なとされる基本的なスキルを修得することを目的として1)ピアカウンセリング研修会を開催し、その際使用するテキストの見直しを行う。また同時に、プリベンション・ケースマネジメント研修を開始し、第一段階として2)プリベンション・ケースマネジメントの基本的な理解の研修を開催する。この研修では、関心や興味を抱いた個人に、PCMの歴史、背景、そして基本的な理念とスキルの修得の機会を提供する。次の段階として3)プリベンション・ケースマネジャーの養成の研修を行う。この研修では1)、2)をふまえた上で、ケース・シミュレーションを行い、実際のスキルの活用をロールプレイを中心に学習することが主な内容である。またその際使用するテキストの見直しも併せて行う。

### 研究のプロジェクトチーム：

当研究を進めるため以下のメンバーでプロジェクトチームを形成した。

#### プロジェクト代表：

藤原良二 (NGOりょうちゃんず)

#### プロジェクト・コンサルタント：

鬼塚直樹 (カリフォルニア大学サンフランシスコ校エイズ予防研究センター) \*

#### 研修スーパーバイザー：

宮島謙介 (臨床心理士) \*

内野悌司 (広島大学) \*

橋本 謙 (臨床心理士) \*

#### 研修スタッフ：

塚本弥生 (ソーシャルワーカー) \*

今井敏幸 (看護師) \*

岡本 学 (ソーシャルワーカー) \*

椎村和義 (NGOりょうちゃんず)

早坂典生 (NGOりょうちゃんず)

橋本則久 (NGOりょうちゃんず)

#### 事業協力

白阪琢磨 (国立大阪病院)

山崎浩司 (京都大学大学院医学研究科)

注) \*は研修指導陣メンバー

このチームメンバーを中心に、広島、大阪、京都、東京、仙台で、それぞれの地においてH I V・エイズに関する活動を行ってきているNGOの協力を得、参加者を募集し、研修会を開催した。研修会はロールプレイなどを取り入れた参加型の形態をとった。

以下はそれぞれの研修の概略の説明と、その活動報告である。

### 1) ピアカウンセリング研修

#### 研修の目的：

H I V感染予防には個人の行動変容が不可欠である。この研修では、その過程を支援するために有

用とされる、ピアカウンセリングの基本的なスキルを学習することを目的とした。PCMプロジェクトへの参加は、この研修（あるいはそれに準ずるもの）を受けていることを条件とした。

**研修の対象：**

HIV感染予防に興味を持ち、様々なスキルを統合的に使い、一つの枠組みの中で提供される予防介入プログラムへの興味あるいは参加の意志を持つ人を対象とした。

**研修の回数と開催場所：**

3回の研修会を計画・開催した。

**ピアカウンセリング研修：第一回目**

|             |                             |
|-------------|-----------------------------|
| 日時          | 平成14年7月27、28日               |
| 場所          | 京都クリスタルホテル<br>洛西ニュータウン病院会議室 |
| 受講者人数       | 12名                         |
| 講師・ファシリテーター | 2名                          |
| 研修合計時間      | 197時間（研修時間×参加人数）            |
| 指導合計時間      | 34時間（研修時間×指導陣人数）            |

**ピアカウンセリング研修：第二回目**

|             |                     |
|-------------|---------------------|
| 日時          | 平成14年9月28、29日       |
| 場所          | カレントコスモ（広島県勤労者福祉会館） |
| 受講者人数       | 12名                 |
| 講師・ファシリテーター | 3名                  |
| 研修合計時間      | 153時間（研修時間×参加人数）    |
| 指導合計時間      | 42時間（研修時間×指導陣人数）    |

**ピアカウンセリング研修：第三回目**

|             |                  |
|-------------|------------------|
| 日時          | 平成14年12月15、16日   |
| 場所          | 国立仙台病院会議室        |
| 受講者人数       | 15名              |
| 講師・ファシリテーター | 2名               |
| 研修合計時間      | 210時間（研修時間×参加人数） |
| 指導合計時間      | 28時間（研修時間×指導陣人数） |

**ピアカウンセリング研修の合計：**

|             |   |
|-------------|---|
| 参加人数        | 39名（5名の重複参加）  |
| 研修合計時間      | 546時間（研修時間×参加人数）  |
| 指導合計時間      | 104時間（研修時間×指導陣人数）   |
| 参加者の職業・専門分野 | 医師=1名、看護師・保健師=7名、薬剤師=1名、臨床心理士=1名、ソーシャルワーカー=1名、大学院生=3名、原告団=4名、NGO=16名、合計=34名 |

**2) プリベンション・ケースマネジメント研修 I（基本的な理解）**

**研修の目的：**

プリベンション・ケースマネジメント（PCM）

の背景、ミッション、特徴、目的、枠組みなど基本的な理解を確立する。さらに実際の方法論を学習し、プログラムに使用するフォームや質問票の開発も併せて取り組む。2回の研修終了後、PCMのプロジェクトチームを設立するため、研修参加者の中から、個人の意向やバックグラウンドを考慮し、参画を要請する。このプロジェクトチームは、今後の研究の実施における意志決定機関として機能することになる。

**研修の対象：**

ピアカウンセリング研修（あるいはそれに準ずるもの）を受講しており、また当プロジェクトの活動に参加の意志を持つ、各分野の活動家及び専門家。

**PCM研修 I：第一回目**

|             |                  |
|-------------|------------------|
| 日時          | 平成14年8月3、4日      |
| 場所          | 国立大阪病院研修棟        |
| 受講者人数       | 11名              |
| 講師・ファシリテーター | 3名               |
| 研修合計時間      | 170時間（研修時間×参加人数） |
| 指導合計時間      | 33時間（研修時間×指導陣人数） |

**PCM研修 I：第二回目**

|             |                  |
|-------------|------------------|
| 日時          | 平成14年10月5、6日     |
| 場所          | 島しょ会館（東京浜松町）     |
| 受講者人数       | 9名               |
| 講師・ファシリテーター | 3名               |
| 研修合計時間      | 135時間（研修時間×参加人数） |
| 指導合計時間      | 45時間（研修時間×指導陣人数） |

**3) プリベンション・ケースマネジメント研修 II（ケースマネジャーの養成）**

**研修の目的：**

プリベンション・ケースマネジメント（PCM）の実際の業務に当たるケースマネジャーの養成を目的とする。PCMへの基本的な理解の確立を基盤に、サービスの提供に必要とされるスキルの取得をめざす。また、プログラムに使用するフォームや質問票などを、ケースのシュミレーションを通して実際に使い、その評価を運営委員会に報告する。

**研修の対象：**

「プロジェクトPCM」の運営委員会のメンバーが、それぞれの専門分野や対象グループとなるコミュニティーに呼びかけをおこない、参加者を獲得していく。研修参加者には、終了後において、プログラムへの参加への意向を確認したうえで、継続研修や実際の業務へのコミットメントが要求されることになる。

**研修の回数と開催場所：**

**PCM研修Ⅱ：第一回目**

|             |                  |
|-------------|------------------|
| 日時          | 平成14年12月7、8日     |
| 場所          | ホテルB&G（東京門前仲町）   |
| 受講者人数       | 7名               |
| 講師・ファシリテーター | 4名               |
| 研修合計時間      | 119時間（研修時間×参加人数） |
| 指導合計時間      | 60時間（研修時間×指導陣人数） |

**PCM研修Ⅱ：第二回目：**

|             |                  |
|-------------|------------------|
| 日時          | 平成15年3月8、9日      |
| 場所          | 京都クリスタルホテル       |
| 受講者人数       | 7名               |
| 講師・ファシリテーター | 4名               |
| 研修合計時間      | 112時間（研修時間×参加人数） |
| 指導合計時間      | 64時間（研修時間×指導陣人数） |

**プリベンション・ケースマネジメント研修Ⅰ&Ⅱの合計：**

|             |   |
|-------------|---|
| 参加人数        | 34名   |
| 研修合計時間      | 536時間（研修時間×参加人数）  |
| 指導合計時間      | 202時間（研修時間×指導陣人数）   |
| 参加者の職業・専門分野 | 医師=2名、看護師・保健師=1名、臨床心理士=1名、ソーシャルワーカー=2名、大学院生=2名、原告団=1名、NGO=7名、合計=16名 |

**本年度研修の総合計：**

|                   | 参加人数      | 受講時間        | 指導時間       |
|-------------------|-----------|-------------|------------|
| ピアカウンセリング研修（実績3回） | 39        | 560         | 104        |
| PCM研修Ⅰ（実績2回）      | 20        | 305         | 78         |
| PCM研修Ⅱ（実績2回）      | 14        | 231         | 124        |
| <b>本年度総合計</b>     | <b>73</b> | <b>1096</b> | <b>306</b> |

**C. 結果と考察：**

ピアカウンセリング研修とプリベンション・ケースマネジメント研修を平行して行い、延べ人数合計で73名の参加者を得て、受講合計時間は1,096時間に達し、その指導合計時間は306時間であった。これは研究の第一年度という時間的制限と、開催地が広島、大阪、京都、東京、仙台と分散したにもかかわらず、研究計画に予定されていた研修全てをを行えた。これはHIVコミュニティの中で、当研究の背景への理解と目的への賛同を得ることが出来た結果であると考えられる。また感染予防介入の必要性の認識や、その方法論の模索は、東京、大阪という大都市だけではなく、地方においてもしっかりと認識されており、当研究

の全国展開への方向性が示唆されたものと考えられる。

また受講者の中には、医師、看護師、ソーシャルワーカー、臨床心理士、抗体検査前後の相談員、熟練電話相談員、NGOのメインメンバーなどが含まれ、専門性や経験の豊富な人々を多く迎えることが出来た。プリベンション・ケースマネジメントは、個人の行動変容の支援を提供するために、効果性の高い対人関係スキルを用いる必要がある。その理解と導入を図ろうとするとき、このように専門性を有した個人の参入は不可欠と考えられるので、この点でも一つの成果を上げることが出来た。

しかし、ピアカウンセリング研修をのぞくPCMそのものへの研修は、本年度は（3月予定の分を含めて）4回しか開催されておらず、開催地や開催日などの理由から、興味や参加意欲はありながらも、研修に参加できない人がいた。また研修を進める中で、コミュニティ内の人脈から、新たな参加者を獲得してきたという経緯もあり、実際の介入プログラムを実践するための十分な人材養成がなされたとは言い難い。反面、こういった研究の初期段階を進めるその過程には、将来におけるプログラムの実践導入への示唆が豊かに含まれており、そこへ向かうための研修のフォーカスポイントの明確化も進んできている。

上記を考慮する中、個人の行動変容へ直接働きかけようとする個人レベルの介入の重要性は、すでにコミュニティの中で認識されており、それを実現させる方法論の開発と修得が急務であると考えられる。研究第一年度を終えて、継続的な取り組みの必要性が再確認された。

**D. 来年度の課題：**

課題1) プリベンション・ケースマネジャーの有力な候補者が数名出てきてはいるが、その人たちが本年度の全ての研修を受講出来なかったという現状がある。従って、来年度の研修は、すでに何回かの研修を受け、PCMに関する基本的な理解とスキルをすでに入手している人々を対象としたアドバンスコースを設置し、ケースシミュレーションやロールプレイなどを中心とし、個人にフォーカスされた研修機会の提供が必要である。

課題2) PCMへの基本的な理解や、対人関係スキルにさらなる学習を必要としているグループも同時に認識されているので、このグループを対象とした継続的な研修の提供を行い、アドバンスコースへの移行を促していく必要がある。

課題3) コミュニティの中にはPCMへの適性

を有し、かつ興味を持ちうる人材が豊かに存在していると思われるので、当研究の広報を行い人材の発掘と参加の呼びかけを重ねて行く必要がある。特に地方における人材開発のため、地方で活躍するNGOとの連携を深めて、コミュニティー・フォーラム（コミュニティーのメンバーの参加を募り、現状の報告や、研究・企画・研修などの案内や参加者の募集などを行う催し物）の開催を計画し、注意や関心の喚起と情報の提供を行う必要がある。

課題4) プリベンション・ケースマネジメントの成功は、ケースマネージャーの質はもとより、この介入方法に適性を持つクライアントのリクルートにかかる部分が多い。またプログラムの性質上、公募というよりは個人的な紹介によるものが多いと考えられる。これは課題3) にあげた、コミュニティー・フォーラムを活用することはもちろんではあるが、コミュニティー内のネットワークを構築し、相互紹介システムの開発に取り組んでいく必要がある。

\*\*\*\*\*

## 参考資料： PCM（プリベンション・ケースマネジメント）の概略：

### 1) PCMの歴史

CDCは、1995年4月に「健康教育とリスクリダクション活動へのガイドライン」の一環としてプリベンション・ケースマネジメント（PCM）のガイドラインを提示し、さらに1997年9月に「HIVプリベンション・ケースマネジメントガイドランス」を発行した。

もちろん1980年代半ばから、アメリカでは様々な予防介入策が実施されており、例としては、ストリート・アウトリーチ、コンドーム・プロモーション、HIVカウンセリングと抗体検査、様々なワークショップやサポート・グループなど多くのプログラムをあげることができる。しかしこのような予防活動が、本格的な展開を見せ始めて10年という一くくりを迎えようとする1990年代半ば頃に、こういった従来の方法論では、HIV感染予防介入が届かない層があることが、次第に明らかになってきたのである。

そのニーズを探っていくと、異言語異文化の障壁、年々複雑化していくHIVをめぐる社会状況、HIVのさらなる流行、薬物中毒や精神疾患といった併発症状、ホームレスという社会問題、長年のセーフセックス教育への不信感と実践への疲れなどが、明らかになっていったのである。

こういった層への予防介入策には、個人レベル、それも継続されかつ集約的なものが必要であるとの認識がなされ、そこに登場したのがPCMであった。専門性の高いスタッフを必要とし、また一対一で継続的にサービスが提供されなければならないことを理由とした、ハイコストという問題を抱えながらも、その効果性は認められ、様々なNGOがCDCへの資金申請を行い、プログラムを構築しサービスの提供を開始していったのである。

### 2) PCMの特徴

上に述べたPCMの歴史はそのままPCMの特徴の一端を表しているが、それに加えて、他のリスクリダクション活動と異にする点を中心にここでまとめておくことにする。

1. クライアントの正式な参加意志の表明  
専門性の高い継続的なプログラムへ、クライアントが自主性を持って参加するというのが条件となる。

2. クライアントとケースマネージャーの関係性  
プリベンションプランの構築、問題解決への努力、カウンセリング、紹介サービスなどの諸々の活動の実践基盤となるプロフェッショナルな関係性を構築していく必要がある。

3. 一対一のカウンセリング  
行動変容プロセスにおける特定の目標に焦点を当てたリスクリダクション・カウンセリングが、継続的に提供される。

4. 専門的スキル  
アセスメント、プリベンションプランの構築、カウンセリング、他のサービスへの効果的な紹介などにおいて、サービス提供側に専門的な知識やスキル、そして人的なネットワークが必要とされる。

### 3) PCMの目的

PCMの基本的な目的は、複雑化が進む社会資源へクライアントがアクセスできるようになるため、専門的な知識やコネクションを通しての支援を提供することである。また心理社会的な介入を通して、クライアントが必要なサービスを活用し、その経験を通して、自分自身の健康性を向上させるための、問題解決能力をより強くしていくように、支援を提供することである。これらは、通常一般的な意味におけるケースマネジメントと同じものである。

HIV予防のためのPCMに独自のものとしては、

次の二点をあげることができる。1) HIV感染のリスク行為自体の明確化と、そのリスク行為に影響を及ぼす医療・心理社会的なニーズの明確化を図ること。そして、2) リスク低減を目的とした具体的な行動変容を達成するため、クライアントを中心に据えた予防行動計画（プリベンションプラン）の作成やその実践への支援提供すること。

セックスという行為によって感染する、HIVやSTDをまずしっかりと見据え、その行為をより安全なものにするため、クライアントを主体とした行動変容への、継続的かつ段階的な支援を提供しようとする、これがPCMの本来の目的なのである。

それでは、具体的な目標は、ということになる。CDCは次の点をPCMのゴールとしてガイドンスの中に提示している。

- HIV感染リスクを低減するため、複雑かつ複合的なニーズを持つクライアントに、その特性にあった支援を提供すること。
- HIV新規感染や感染拡大予防に必要とされている、行動変容の開始や維持をサポートするために、クライアントに特化された、複数回のカウンセリングを提供すること。
- HIV以外のSTD感染リスクのアセスメントを提供し、適切な診断や十分な治療を確保すること。
- クライアントは、健康全般やHIVリスク行為を変容しようとする力を持っており、その力に影響を及ぼしうる医療や心理社会的なニーズと取り組むため、諸サービスへの紹介を推進すること。
- HIV感染者やエイズ患者の持つ、二次感染予防のニーズへの紹介サービスを推進すること。

## 研究成果の刊行に関する一覧表

(丸印は、別冊を貼付のもの)

### 論文 (原著)

- ① Kihara M, Ono-Kihara M, Feldman MD, Ichikawa S, Hashimoto S, Yamamoto T, Kamakura M. HIV/AIDS surveillance in Japan, 1984-2000. *J Acquir Immune Defic Syndr (suppl : International perspectives on HIV/AIDS surveillance , Kihara M, Feldman M, Kamakura M. eds );s55-s62, 2003*
- ② Ono-Kihara M, Kihara M, Yamazaki H. Sexual practice and the risk for HIV/STI infection of youth in Japan. *Jpn Med Assc J 45:520-525, 2002.*
- ③ Nemoto T, Yokota F, Hanafusa K, Wada K. HIV-related risk behaviors among Japanese tourists in the Khaosan Road Area, Bangkok, Thailand. *AIDS and behavior 6:245-254, 2002*
- ④ 橋本修二, 福富和夫, 山口拓洋, 松山裕, 中村好一, 木村博和, 市川誠一, 木原正博. HIV 感染者数と AIDS 患者数のシステム分析による中長期展望の試み. *日本エイズ学会誌, 2002;4:8-16.*
- ⑤ 山口拓洋, 橋本修二, 川戸美由紀, 中村好一, 木村博和, 市川誠一, 松山裕, 木原正博, 白阪琢磨. エイズ治療の拠点病院における HIV/AIDS の受療者数. *日本エイズ学会誌, 2002;4:91-95.*
- ⑥ 谷原真一, 中村好一, 橋本修二. エイズ診療拠点病院担当医師の HIV/AIDS 患者届出状況に関する調査—届出に影響を及ぼす因子の解析を含めて—. *日本エイズ学会誌 1:27-32, 2003*

### 著書

1. 木原正博. Q4 : 日本では HIV 感染者は増えていないと聞きますが本当ですか. HIV Q&A、医薬ジャーナル社、2002 年
2. 木原雅子. Q5 : 日本で今後感染者の増加が危惧される原因は何か. HIV Q&A、医薬ジャーナル社、2002 年
3. 熊本悦明. Q6 : HIV 感染症増加を危惧しなければならない性感染症の現状はどうですか. HIV Q&A、医薬ジャーナル社、2002 年

### 論文 (総説)

- ① 木原雅子, Kyung-Hee Choi, 木原正博. HIV 性感染の予防介入への戦略. *Modern Physician 22:370-373, 2002*
- ② 木原正博, 木原雅子, 市川誠一. HIV 感染症の動向と今後の予測. *Modern Physician 22:273-276, 2002*

3. 木原正博、木原雅子. HIV-1 感染症の展望. 日本臨床 60: 646-651, 2002
4. 市川誠一、木原正博、木原雅子、木村博和. HIV 感染症疫学の現状. 化学療法の領域 18: 495-501, 2002
5. 木原雅子、木原正博. 日本のエイズ流行の展望と性感染予防の戦略. 日本医事新報 4066: 37-42, 2002
6. 木原雅子、木原正博. エイズ・性感染症—わが国のゆくえ. Sexuality 7:22-28, 2002
- ⑦ 木原正博、木原雅子. HIV 感染症の社会疫学. 現代医療 35:60-64, 2003 年
8. 市川誠一、木原雅子、木原正博: エイズ啓発を振り返って、日本性感染症学会誌、2002.3、13 (1)、26-31
9. 市川誠一: エイズ啓発を振り返って—予防の視点からの考察、治療、2002.7、84 (7)、1915-1920
10. 木原雅子、木原正博. 性的ネットワークと STD/HIV の流行. 治療 84, 2003 (印刷中)
11. 木原正博. HIV 感染症—日本の現状. Current Concepts in Infectious Diseases, 2003 年 (印刷中)

20020647

P.411－P.471は雑誌/図書に掲載された論文となりますので、  
P.409－P.410の「研究成果の刊行に関する一覧表」をご参照ください。



**平成 14 年度厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業  
HIV 感染症の動向と予防介入に関する社会疫学的研究**

---

2003 年 3 月 31 日 発行

代表者 木 原 正 博

連絡先 京都大学大学院医学研究科  
社会健康医学系専攻国際保健学講座  
〒606-8501 京都市左京区吉田近衛町  
TEL 075-753-4650 FAX 075-753-4359

---

©2003

印刷 サンコー印刷 KK

本報告書に掲載された論文及び調査票には著作権が発生しておりますので利用にあたりご留意下さい。